

5. ホスト機関からのコミットメント (英語で記載)

2012年2月9日

文部科学省 宛

物質・材料研究機構
理事長 潮田 資勝

署名

「世界トップレベル研究拠点プログラム」に採択された「国際ナノアーキテクトニクス研究拠点」に関し、以下に示す事項について責任をもって措置していくことを確認する。

<中長期的な計画への位置づけ>

※ 「当該拠点をホスト機関の中長期的な計画上に明確に位置づけるということに関し、どのような計画にどのような形で位置づけるかについて具体的に記載。

NIMS本体から見たとき、本構想における拠点は、大きく分けて次の2つの役割を担う組織としてデザインされている。①材料に関する基礎・基盤研究を化学や物理との分野融合を図りつつ実施する先端的研究実施組織、②国際的、学際的雰囲気の下で、材料研究の次代を担う研究者を育成する組織。

①に関する目標は「持続可能な社会を実現する革新的な新材料の開発」であり、これはNIMSの中期目標、中期計画に整合するものであり、本構想における拠点は、それをより先鋭的かつ加速化して遂行することで、NIMS本体を強力に牽引する役割を担うものとして位置づけられる。他方で、本拠点構想が、②の研究者の育成をもう一本の柱とすることは、ホスト機関のNIMSにとって非常に重要な点である。本構想における拠点は、グローバルに活躍できる優秀な若手研究者を育成してNIMSにテニユア研究員として送り込む拠点として位置付けられる。

すなわち拠点は、研究面での牽引と人材の供給の両面においてNIMS本体の長期戦略の中に明確に組み込まれている。

<具体的措置>

※ 以下のそれぞれの事項について、具体的措置を記載。

① 該拠点が、拠点運営及び拠点における研究活動のために、本プログラムからの支援額と同程度以上のリソースを当該拠点に参加する研究者が獲得する競争的資金等の研究費、ホスト機関からの現物供与等（人件費の部分負担、研究スペースの提供等）もしくは外部からの寄付等により確保するに当たり必要な支援を行う。

i) 拠点に参加するNIMSの定年制職員（テニユア研究職員、事務スタッフ等）の一部および任期制職員の一部について、人件費をNIMSの運営費交付金等から充当する。

ii) NIMSから主任研究員として参加する研究者が担当している運営費交付金プロジェクトについては、その研究費の相当部分を拠点に充当し、拠点において実施する。NIMSから参加する研究者の獲得した競争的資金のうち、拠点における研究計画と整合するものについては、直接経費に相当する部分を拠点に充当する。

iii) 拠点の活動に必要な事業推進費（研究設備・工事費、挑戦的萌芽研究費、共通設備運営費、サテライト運営経費、出張・招へい旅費、シンポジウム経費、アウトリーチ活動経費等）の一部について、NIMSの運営費交付金から充当する。

iv) 並木地区にあるMANA棟を中心に十分なスペースを確保する。

v) その他、必要に応じて、予算、スペースに関する追加的支援を行う。

② 拠点運営に一定の独立性を確保するため、「拠点構想」実施に当たって必要な人事や予算執行等に関し、実質的に拠点長が判断できる体制を整える。

拠点長には理事長より拠点内での運営全般に関する権限を委譲する。即ち、拠点長はNIMS定年制職員を除き拠点に招聘される研究者の採用と契約更新、給料、研究費、スペース配分等を決定する権限を有する。また、同じくNIMS定年制職員を除き事務系職員の採用や契約更新の権限もまた有する。

③機関内研究者を集結させるに当たり、ホスト機関内の他の部局における教育研究活動にも配慮しつつホスト機関内での調整を積極的に行い、拠点長を支援する。

拠点長が希望し、本人の了承が得られ、NIMS理事長が必要と認めた場合には、NIMS職員の拠点への移籍を行う。上で述べたように、拠点はNIMS本体へ若手テニユア研究員を供給する役割を担う。逆に、必要な人材はNIMS本体から拠点到供給される。拠点とNIMS本体の間でこのような人材の流動化を進めていくことで、双方が活性化できると信じている。

④機関内の従来の運営方法にとらわれない手法（英語環境、能力に応じた俸給システム、トップダウン的な意志決定システム等）を導入できるように機関内の制度の柔軟な運用、改正、整備等に協力する。

英語の公用語化、英語による事務支援体制、事務ドキュメントのバイリンガル化、年俸制、研究者業績評価、給料の査定と契約更新などに関する先鋭的な運営はすでに、若手国際研究拠点（ICYS）において実施した経験がある。今回の拠点においてこれらを発展させた柔軟でユニークな運営形態を採用することに何の問題もない。拠点において成功した運営方式はNIMS本体に積極的に取り込んでいくことを考えている。

⑤インフラ（施設（研究スペース等）、設備、土地等）の利用に関し便宜を図る。

拠点の活動のために、並木地区にあるMANA棟を中心に約10,000m²を研究のためのスペースとして提供する。これにより、拠点において以下のスペースが確保できる。

実験スペース： 自立的に研究を推進するポスドク等の若手研究者等に限って、MANA棟に居室と実験室を配分する（全体で約4000m²）。実験スペースとして、約1/2スパンを与える。外部招聘の主任研究者には必要十分なスペースを配分する。

個室とカフェテリア： 若手研究者が研究に没頭しやすく、且つ居住環境のよい個室（約12m²）スペースを提供する。特に、Melting Pot環境を実践するために、居室を同場所1ヶ所に集約するとともに、カフェテリアなどの議論の場所を十分に確保する。ICYSで用いている個室を本拠点で活用する。

NIMSの有するナノファウンドリをはじめとする研究設備・施設は拠点研究者に全面的に開放し、使用に当たって最大限の便宜を図る。さらに、共通性が高く、世界最高レベルの先端装置を拠点と協力して計画的に整備してゆく。

⑥その他、当該拠点が「拠点構想」を着実に実施し、名実ともに「世界トップレベル拠点」となるために最大限の支援をする。

拠点構想はNIMS全体の活性化のために極めて有効であると考えており、その円滑な実施のために最大限の便宜を図る所存である。NIMSは拠点がNIMS本体を強力に牽引する役割を担うことを期待している。しかし、これは、NIMSが抱える個別の問題（例えば、研究者の平均年齢の増加等）を拠点プロジェクトを利用して解決しようとするものではない。それらは当然のことながらNIMS本体の改革と効率化を通じて解決されるべき問題である。NIMSが拠点到期待しているのは、①ナノテクノロジーとナノ物質・材料の研究を先鋭的かつ加速化して遂行し、NIMS本体を研究面で引っ張ること、②国際的、学際的雰囲気の下で、材料研究の次代を担う研究者を育成し、NIMSの研究リーダーとして供給すると同時にNIMSのテニユアトラックを確立すること、の2点に尽きる。